

■ 開設年度		■ 開講部局			
2011		共通教育			
■ 科目名					
現代の日本政治					
■ 英語科目名					
Present Japanese politics					
■ 前後期		■ 開講区分		■ 科目形態	
後期		毎週		講義	
■ 単位数		■ 大分類（科目）		■ 中分類（分野）	
2		教養科目		分野2	
■ 受講学部学科					
全					
■ 担当教員			■ 担当教員所属		
吉田 健一			稲盛アカデミー		
■ 連絡先（TEL）			■ 連絡先（MAIL）		
099—285—3756			k5621643@kadai.jp		
■ オフィスアワー（授業時間外の対応）					
【オフィスアワー】毎週水曜日午後 事前に連絡を頂ければ、正規のオフィスアワー以外の時間であっても対応致します。					
■ 共同担当教員					
■ キーワード1			■ キーワード2		
視野・判断力・探求能力			社会的貢献意識		
■ 授業概要（目的・内容・方法）					
内容的に、本講義は大きく2期に分かれる。1回目「はじめに - 政治とは？」から7回目「利益団体・社会集団・ネットワーク」までは、基本的な知識を伝授する。 8回目から14回目までは、戦後の我が国の政治史を、主要政党の歴史に焦点を当てて概観する。本講義は「現代の日本政治」であるが、現在起こっている事の時事解説を行うものではない。現在起こっている事への理解を深める為にはある程度、歴史的な視点が必要であるという観点から、本講義では、前半では、政治を見る際の視点に触れた、後半では、我が国の現代政治について学ぶ。 方法は受講者が多い時は通常の講義方式、受講者が比較的少ない時は、一部、ゼミ形式を取り入れるなども視野に入れている。本講義の目的は、我が国の戦後政治史の知識を得た上で、今日的課題への理解を深める事である。					
■ 学習目標					
1) 政治学の基本概念をある程度理解する。 2) 戦後の我が国の政治史の流れをある程度理解する。 3) 現代日本政治の抱える政策課題について自ら考える。 4) 日々の政治ニュースを見る独自の視点を持てるようにする。 5) 民主社会の一員として、主体的に世の中を作っていくことの意義を考える。結果として、受講生諸君が自ら公共の課題について自分なりの政策を考えられるようにするのが目標である。					
■ 授業計画（15回に分け、回数、授業内容、自学自習等）					
（第1期） 1. はじめに—政治とは？ 2. 選挙・投票行動・政党制 3. マスメディアと政治意識 4. 政治を動かす「思想」と「利権」 5. 政治家の種類と仕事 - 首長・国会議員・地方議員— 6. 官僚制—中央と地方公務員— 7. 利益団体・社会集団・ネットワーク					
（第2期） 8. 自由民主党1（1945年から佐藤内閣まで） 9. 日本社会党（含む：社会民主党） 10. 自由民主党2（田中内閣から宮沢内閣まで）					

11.自由民主党3（93年以降、現在まで） 12.日本共産党 13.民社党と社民連 14.日本新党・新党さきがけ・新生党・新進党 15.民主党（96年第1次～現在の第3次まで）	
■ 受講要件	■ 成績の評価基準
公共政策、現代政治の諸課題に関心をもっている事。 選挙、政策、政治思想、政党制、地方自治、国際政治、外交、メディア、官僚制など何でも良いので何か1つ特定のテーマに関心を持っている事が望ましい。22年度に受講してない事。	3分の2以上の、出席を前提として （1）毎回のフィードバックシート（50％） （2）期末レポート（50％）を総合的に評価。 期末レポートの提出要件は3分の2の出席とする。
■ 教科書	■ 参考書
受講者には、受講登録後、授業で使う講義用テキストの冊子を配布する。	『日本政治史』全5巻・升味準之輔・東京大学出版会、 『戦後政治史』上・下、升味準之輔・東京大学出版会、 『現代政治』上・下、升味準之輔・東京大学出版会、 『日本政党史論』全7巻・升味準之輔・東京大学出版会、 『日本の政治』村松岐夫・伊藤光利・辻中豊 有斐閣 1992、 『日本の政治力学』中野実 日本放送出版協会 1993、 『政治学』大嶽秀夫・鴨武彦・曽根泰教 有斐閣 1996、 『政策科学入門』宮川公男 東洋経済新報社 1995、 『政策科学へのアプローチ』山口定・柴田弘文編著 ミネルヴァ書房 1999、 『政治改革』山口二郎 岩波新書 1993、 『日本政治の課題—新・政治改革論—』山口二郎 岩波新書 1997、 『戦後政治史』石川真澄 岩波新書 1995、 『ポリティカル・サイエンス事始め』伊藤光利編・有斐閣ブックス・1996年
■ その他	